

文化芸術創造あいちづくり 推進方針

～ “愛知発” の文化芸術の創造と展開をめざして～

平成 19 年 12 月
愛知県

“愛知発”の文化芸術の創造と展開をめざして



文化芸術は、県民の皆様方、お一人おひとりが心の豊かさを実感したり、感動を分かち合ったり、また、地域全体の魅力を向上させるなど、個々の人づくりからコミュニティづくり、ひいては、地域づくりそのものについて、極めて大きな役割を果たしています。

近年、この地域におきましては、愛知万博の開催を契機とした文化芸術に対する関心の高まりや NPO・ボランティア活動への参加気運の広がりがみられ、県民の文化芸術との関わり方が大きく変化しています。

また、社会経済のグローバル化や地方分権・行財政改革の一層の進展、人と人、人と地域との結びつきの希薄化の進行など、社会のあり方も大きく変化してきており、文化芸術の振興を図っていく上で、行政の果たすべき役割を見直していくことが求められています。

こうした中、本県では、これからの愛知の地域づくりの羅針盤である「新しい政策の指針」(平成 18 年 3 月策定)において、地域の新たな魅力を創造し、国内外に発信していく「文化芸術創造あいちづくり」を、戦略的・重点的な政策の一つとして位置づけるとともに、「愛知の文化芸術振興に関する有識者懇談会」のご提言や広く県民の方々からいただいた貴重なご意見を踏まえ、今後の文化芸術政策の推進方針を策定いたしました。

県といたしましては、世界・未来に向けた“愛知発”の文化芸術の創造と展開をめざして、文化芸術を担い支える人づくりや多様な個性・価値を実現する場づくり、地域文化を発掘・継承・発展する仕組みづくりなどに取り組んでまいりたいと考えております。

県民の皆様方を始め、民間団体、市町村、国など関係の方々の一層のご理解・ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

平成 19 年 12 月

愛知県知事

神田 直 秋

(注)「文化芸術」の範囲

ここでは、音楽・美術・演劇・舞踊・文学などの芸術、映像を始めとするメディア芸術、能楽・文楽・歌舞伎などの伝統芸能、民俗芸能及び茶道・華道・書道などの生活文化を総称して「文化芸術」と表現します。

目 次

策定の趣旨	1
1 策定の背景及び意義	1
(1) 経緯及び背景	1
(2) 策定の意義	4
2 性格・役割	4
3 目標年次及び期間	5
基本目標	6
世界・未来へ“愛知発”の交流・創造の展開	6
連携・協働による文化芸術の振興と多様な交流の促進	6
文化芸術に彩られた心豊かな地域社会の実現	6
政策の重点方向	7
1 世界・未来に貢献する文化芸術の創造と展開	7
2 文化芸術を担い、支える人づくり	7
3 多様な個性・価値を実現する文化芸術の場づくり	7
4 地域文化の発掘・継承・発展の仕組みづくり	8
5 文化芸術政策の総合的な推進	8
基本課題と主な取組	9
1 世界・未来に貢献する文化芸術の創造と展開	9
(1) 国際的な芸術祭等の広域展開と愛知文化の発信	9
(2) 愛知芸術文化センターを拠点とした芸術創造の展開と国際連携の推進	12
(3) 芸術と産業の融合促進	16
2 文化芸術を担い、支える人づくり	18
(1) 子どもの文化芸術体験の充実	18
(2) アウトリーチ活動等の充実・拡大	19
(3) 新進芸術家の育成支援	21
(4) 鑑賞機会の充実・拡大	22
3 多様な個性・価値を実現する文化芸術の場づくり	24
(1) 「新しい公共」のモデルとなる愛知芸術文化センター等の新展開	24
(2) 広域的、国際的な文化芸術活動の重点支援	25

(3) 多様な文化が輝く社会づくり.....	26
4 地域文化の発掘・継承・発展の仕組みづくり	28
(1) 地域の伝統芸能や文化財、食文化、景観等を活かした地域力の強化	28
(2) 地域文化を支える NPO・ボランティア活動等の促進.....	29
5 文化芸術政策の総合的な推進	31
(1) 推進体制の充実・強化.....	31
(2) 従来施策の見直しや民間資金の活用.....	32
推進方針の具体化に向けて	34
(2010年のマイル・ストーン).....	34
(幅広い意見把握)	34
(政策の体系)	35

(参考資料)

推進方針の作成経過.....	37
愛知の文化芸術振興に関する有識者懇談会開催要領・委員名簿	39
愛知の文化芸術振興に関する有識者懇談会 報告書要旨	41
愛知県文化行政推進会議開催要領	45
平成 18 年度文化芸術環境調査の概要	47

策定の趣旨

1 策定の背景及び意義

(1) 経緯及び背景

本県では、魅力ある愛知の文化の創造による、生きがいに満ちた豊かで潤いのある暮らしの実現をめざして、平成 4 年に文化振興施策の総合的な指針である「愛知県文化振興ビジョン」(以下「ビジョン」という。)を策定し、さらに、平成 15 年には、愛知万博の開催年(平成 17 年)を中間年とする 5 か年の行動計画として「愛知文化芸術行動プラン」(以下「行動プラン」という。)を策定し、これまでに諸施策の計画的、総合的な推進を図ってきました。

これらの成果として、拠点施設である愛知芸術文化センター等における独創性あふれる文化事業の展開や、文化芸術の普及・啓発などが着実に進められるなど、本県の文化芸術の振興が図られてきました。

<愛知の文化芸術振興の歩み>

年月	主なできごと	国等の動き
平成 2 年 4 月	あいちの文化施策研究会(座長 飯島宗一 名古屋大学名誉教授(当時))設置	
平成 3 年 4 月	総務部に文化振興局を設置(3 課 8 係) 文化振興基金条例制定(制定時 100 億円) 愛知芸術文化センター条例制定	
5 月	文化行政推進会議設置(14 部局 28 課室)	
平成 4 年 2 月	あいちの文化施策研究会報告	
3 月	「愛知県文化振興ビジョン」策定	
4 月	財団法人愛知県文化振興事業団設立(基本財産 20 億円)	
10 月	愛知芸術文化センター全面開館	
平成 5 年 3 月	陶磁資料館古窯館竣工	
4 月	県文化振興事業団プロデュースオペラ公演(以降、継続開催)	
4 月	県美術館企画展「パウル・クレーの芸術」開催(入場者約 10 万人)	
11 月	陶磁資料館本館、陶芸館増築工事竣工	
平成 6 年 4 月	陶磁資料館増築部分及び古窯館開館	
5 月	県文化情報センター・映像作品「トワイライツ」がオーバー・ハウゼン国際短編映画祭・短編部門でグランプリ受賞	
6 月	同 ヌルポルン国際映画祭・短編部門でグランプリ受賞	
7 月	陶磁資料館完成記念式典・本館増築部分開館 陶磁資料館完成記念特別展「東洋陶磁名品展」開催	
9 月	陶磁資料館完成記念特別展「国際現代陶芸展」開催	
平成 7 年 2 月	県美術館企画展「アンドリュー・ワイエス展」開催(入場者約 12 万人)	
平成 8 年 7 月		「文化立国 21 プラン」提言
10 月	アジア太平洋パフォーミングアーツセンター連盟設立に参画	
11 月	県文化情報センター・アートフィルム・フェスティバル(以降、毎年継続開催)	
平成 10 年 3 月	「新世紀へ飛躍～愛知 2010 計画」策定	「文化振興マスタープラン」策定
4 月	陶磁資料館開館 20 周年記念特別企画展「耀州窯展」開催	

年月	主なできごと	国等の動き
10月	陶磁資料館開館20周年記念特別企画展「日本の三彩と緑釉」開催 陶磁資料館入館者150万人突破	
平成11年4月	名古屋ポストン美術館開館	
10月	県文化振興事業団コンサートシリーズ「音楽への扉」(以降、毎年継続開催)	
平成12年1月	県美術館企画展「セザンヌ展」開催(入場者約17万人)	
4月	県民生活部に文化学事課を設置 県美術館企画展「アムステルダム国立美術館所蔵レンブラント、フェルメールとその時代」開催(入場者約10万人)	
10月	県文化振興事業団AAF戯曲賞受賞作品発表(以降、毎年継続募集)	
12月		愛知万博がBIE通常総会で登録承認
平成13年1月		文化審議会設置
4月	県文化振興事業団・愛知県芸術劇場演劇フェスティバル開催(以降、毎年継続開催)	
9月	県文化情報センターオリジナル映像作品「ボディロップスファルト」がスプリト国際新作映画祭2001ビデオ部門特別賞受賞	
12月		文化芸術振興基本法制定
平成14年2月	県美術館企画展「世界遺産ポンペイ展」開催(入場者約10万人)	
3月	「新世紀愛知づくりに向けての先導的施策プログラム(愛知2010計画中期推進プラン)」作成	
4月	県美術館開館10周年記念企画展 開催(平成15年2月まで継続開催)	
5月	県美術館入館者が1,000万人を突破(愛知芸術文化センター開館以降)	
8月	愛知文化芸術行動プラン検討会議(座長 清水裕之 名古屋大学大学院教授)設置	
10月	愛知芸術文化センターであいち芸術文化フェスタ2002を2ヶ月にわたり開催	愛知万博起工式 「文化芸術の振興に関する基本的な方針」閣議決定
12月		
平成15年3月	県文化情報センターが「第1回アサヒビール芸術賞」を受賞	
8月	「愛知文化芸術行動プラン」策定	
10月	県美術館企画展「弘法大師入唐1200年記念空海と高野山展」開催(入場者約10万人)	
平成16年1月	陶磁資料館入館者200万人突破	
2月	県文化情報センター・ダンスオペラ及びあいちダンス・フェスティバル(以降、毎年継続開催)	
11月	愛知芸術文化センターで愛知万博プレイベント開催	
平成17年3月	県美術館企画展「自然をめぐる千年の旅 - 山水から風景へ -」開催 陶磁資料館・愛知万博記念特別企画展「桃山陶の華麗な世界」・「ピカソの陶芸・創造と伝統」同時開催	愛知万博開幕(入場者約2,200万人)
7月	県美術館企画展「ゴッホ展」開催(過去最高の入場者数約42万人を記録)	
8月	愛知芸術文化センター入館者数が4,000万人を突破	
10月	県美術館全館所蔵作品展「コレクションでたどる美術館50年の歩み」開催	
平成18年3月	「新しい政策の指針」策定	
4月	県民生活部に文化芸術課を設置	
5月	愛知の文化芸術振興に関する有識者懇談会(座長 松尾稔 (財)科学技術交流財団理事長)設置	
7月	県文化振興事業団上演シンフォニック・オペラ「白鳥」が第4回佐川吉男音楽賞を受賞	
12月	有識者懇談会報告「文化芸術あいち百年の軸をつくる」	

<愛知芸術文化センターの概要(栄施設)>



規模	地上12階、地下5階、高さ58m
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造
敷地面積	18,173 m ²
建築面積	12,113 m ²
延床面積	110,527 m ²
工期	平成元年3月~平成4年6月
開館	平成4年10月30日

ビジョン及び行動プランの策定後、文化芸術をめぐる状況は、次のように大きく変化してきています。

(世界的な情勢)

- ・ 社会経済の急速なグローバル化に伴い、文化芸術の世界的な相互交流が一層促進される一方、各国・地域の文化的アイデンティティ(固有性)の危機や、文化の多様性¹が脅かされることが懸念されており、伝統や地域特性に根ざした文化芸術の重要性が改めて問われています。
- ・ インターネットを始めとする情報技術革新が一段と加速化し、あらゆる分野において、情報の受信・発信が容易となり、国境を越えた対話や交流が活発化していますが、その一方で、人と人、人と地域との結びつきが一層希薄化するなど、人間関係や社会そのもののあり方が大きく変わりつつあります。

(国内の情勢)

- ・ 地方分権・行政改革の進展に伴い、自主的、自立的な地域経営への転換が求められるとともに、厳しい財政状況が続く中で、文化芸術の振興を図る上では、指定管理者制度の導入などにより、民間と行政の役割分担の見直しを通じた公共サービスの効果的、効率的な提供が一層必要となっています。

(本県の情勢)

- ・ 本県で平成 17 年 3 月から半年間にわたり開催された 2005 年日本国際博覧会(以下「愛知万博」という。)では、県民、NPO(民間非営利組織)・ボランティア、企業、市町村などの数多くの力が結集され、文化芸術に対する関心の高まりや、NPO・ボランティア活動への参加気運の広がりなど、様々な成果をこの地域にもたらしました。

こうした愛知万博の成果をさらに発展させて、新しい文化芸術振興の取組に活かしていくことが重要となっています。

¹ 文化の多様性

平成 17 年 10 月に国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)で「文化的表現の多様性の保護及び促進に関する条約(文化多様性条約)」が採択されました。この条約では、国内での文化多様性の保護・促進のための様々な施策の実施や、先進国による途上国への促進措置・協力の実施が規定されています。

(2) 策定の意義

この推進方針は、こうした情勢変化等に的確に対応すべく、平成 18 年 12 月に「愛知の文化芸術振興に関する有識者懇談会」から提言された「文化芸術あいち百年の軸をつくる」を踏まえ、次のような文化芸術振興の今日的な意義と基本的視点のもとに策定するものです。

(今日的意義)

- ・ 文化芸術は、県民一人ひとりのかけがえのない個性・自分らしさの実現や、新たなライフスタイル・ビジネススタイル(経済活動)の創出など、人々の固有性・独創性を実現する上で一層重要な役割を果たすとともに、これまで以上に新たな価値を生み出す源泉ともなっています。

(基本的視点)

世界・未来への貢献

- ・ 文化芸術の振興を通じて、行動プランで掲げた「世界に開かれた「あいち文化」の創造と発信」からさらに歩みを進め、地球規模での交流・創造の展開や諸文化の多様な発展に積極的に貢献していくことが重要です。

連携・協働の推進

- ・ 文化芸術の振興を図る上で、これまでの行政の役割を抜本的に見直し、県民、NPO・ボランティア、企業等と連携・協働し、支えあって公共的な責任を果たす「新しい公共」*2へと転換していくことが必要です。

地域社会の形成

- ・ 地域の伝統や特性を活かした文化芸術の継承・発展を通じて、人々の心の豊かさや地域全体の魅力、活力の向上につなげ、自主性、自立性の高い地域社会の形成、発展をめざしていくことが重要です。

2 性格・役割

この推進方針は、ビジョン及び行動プランに替わり、本県の文化芸術政策の長期的な基本目標と重点方向を掲げ、取り組むべき基本課題や主な取組を

² 「新しい公共」

行政だけでなく住民、NPO、企業等の多様な主体が協働し、支えあって公共的な責任を果たすこと。例えば、文化芸術の分野では、NPO が、文化施設や学校と連携し、企業の資金援助や芸術家、ボランティアの協力を得ながら、住民参加の文化芸術活動を企画・制作したり、子どもの芸術体験機会を幅広く提供するなどがあげられます。

示すものです。

これからの愛知の地域づくりの羅針盤として策定した「新しい政策の指針～今を越え、さらに世界で輝く愛知づくり～」(平成 18 年 3 月策定)において、戦略的・重点的な政策の一つとして位置づけた「文化芸術創造あいちづくり」を推進するための個別指針としての役割を果たします。

文化芸術の振興と多様な交流の促進に向けて、県民、NPO・ボランティア、企業等の様々な主体が連携・協働を推進するための指針としても役立つことをめざします。

3 目標年次及び期間

今後、10 年程度の政策の基本目標及び重点方向を定めた上で、平成 20 年度から 24 年度までの 5 年間に取り組むべき基本課題と主な取組を示します。

基本目標

本県の文化芸術政策の基本目標として、前章の文化芸術振興の今日的な意義を踏まえつつ、「世界・未来への貢献」、「連携・協働の推進」、「地域社会の形成」の3つの基本的視点から、今後10年程度の間をめざすべき姿を次のとおり掲げます。

世界・未来へ“愛知発”の交流・創造の展開

愛知は、日本の東西の要衝に位置し、産業だけでなく、文化芸術の交流拠点として、わが国の発展に大きな役割を果たしてきました。こうした交流拠点性を発展させつつ、さらに、愛知が培ってきた特性を活かし、世界、未来に向けて、日本の文化の扇の要として、新たな文化芸術を創造・発信していくことにより、愛知発の世界的な交流・創造が本格的に展開されることをめざします。

連携・協働による文化芸術の振興と多様な交流の促進

県民、NPO・ボランティア、企業等と行政との連携・協働の取組が定着し、文化芸術の人づくりや場づくりが進むことにより、一人ひとりの、かけがえのない個性、自分らしさの実現が図られ、多種多様な文化芸術の交流が広がることをめざします。

文化芸術に彩られた心豊かな地域社会の実現

地域文化の固有性や芸術の創造性に対する社会的な認識が広まり、教育や福祉、まちづくり等の様々な分野で文化芸術が活かされることにより、多様な地域文化が育まれ、一人ひとりが心の豊かさを実感でき、地域全体の魅力や活力が高まっていくことをめざします。

政策の重点方向

基本目標の実現に向け、今後 10 年程度の間の文化芸術政策の 5 つの重点方向を示します。

1 世界・未来に貢献する文化芸術の創造と展開

世界・未来に向けて、愛知芸術文化センターを拠点とした芸術創造機能を一層強化するとともに、幅広い分野での国際連携の推進を図っていきます。

愛知の文化芸術の創造・発信に地域が一体となって取り組み、次代への継承・発展を図っていきます。

メディア芸術³等と産業の融合促進等による文化芸術の産業化を進めていきます。

2 文化芸術を担い、支える人づくり

次代を担う子どもを対象として文化芸術を体験する機会を提供するなど、様々なアウトリーチ活動⁴等を展開していきます。

愛知で活躍する新進芸術家が、世界的レベルに成長、躍進していくための環境づくりを進めるとともに、文化芸術の担い手(芸術家等)と支え手(鑑賞者等)、双方の拡大とレベルアップを図っていきます。

3 多様な個性・価値を実現する文化芸術の場づくり

愛知芸術文化センター等の事業展開において、県民を始めとする様々な主体による「新しい公共」⁵の形成を通じて、多様な交流・創造を図っていきます。

広域的、国際的な文化芸術活動に対する支援や、様々な文化の違いを尊重し、ともに発展する環境づくりを進めるなど、県民一人ひとりのかけがえのない個性や価値を表現、実現するための場づくりに取り組んでいきます。

³ メディア芸術

映画、漫画、アニメーション及びコンピュータその他の電子機器等を利用した芸術。(文化芸術振興基本法第9条)

⁴ アウトリーチ活動

地域に向かいに行う文化芸術の普及活動。例えば、学芸員等が、学校に出かけて児童・生徒に美術品等の文化資源への興味を喚起させ、また理解を深化させるための体験型の教育普及活動があります。

⁵ 「新しい公共」脚注2参照

4 地域文化の発掘・継承・発展の仕組みづくり

地域の伝統芸能や文化財、食文化、景観等の様々な文化資源を発掘、再評価し、地域文化の継承・発展とともに地域力の強化に結びつけていきます。

地域文化を支える NPO・ボランティア活動の支援や、地域の自主的、主体的な取組を促進していきます。

5 文化芸術政策の総合的な推進

芸術創造機能の強化や幅広い協働を基礎とした政策推進を図っていくため、県の推進体制を再構築するとともに、協働を創出する仕組みの構築・充実に努めていきます。

既存施策の大胆な見直しや民間資金の活用などに取り組むとともに、文化芸術政策と教育、福祉、観光、まちづくり等の他分野の政策との連携強化を図っていきます。

基本課題と主な取組

前章の5つの政策の重点方向に即して、平成24年度までの5年間の取り組むべき14の基本課題を取り上げ、基本課題ごとの主な取組を示します。

1 世界・未来に貢献する文化芸術の創造と展開

(1) 国際的な芸術祭等の広域展開と愛知文化の発信

愛知芸術文化センター、陶磁資料館、県立芸術大学などの連携強化を図りつつ、新たに愛知から文化芸術を世界へ発信する国際的な芸術祭を定期的に開催するなど、地域が一体となった取組が必要です。

その際、芸術関係者、県民、NPO、企業、市町村等と目標を共有し、その達成に向けて、幅広い協働をベースとした広域的な展開を図っていくことが重要です。

世界における愛知のアイデンティティー(愛知らしさ)の確立に向けて、県内の美術館や博物館等の文化芸術資源の連携・協力を進め、県全体としての総合的な文化芸術の発信力、訴求力を強化していく必要があります。

<主な取組>

国際芸術祭等の定期的開催

(国際芸術祭の開催)

- ・ 新たに愛知から文化芸術を世界へ発信するため、芸術関係者、県民、NPO、企業、市町村等と幅広い連携・協働を図りつつ、2010年(平成22年)を初回とする国際芸術祭の定期的な開催をめざします。

<国際芸術祭構想の検討骨子>

- 1 開催目的
 - ・ 新たな芸術の創造・発信により、現代芸術の発展に貢献します。
 - ・ 世界水準の現代芸術等の紹介や連携・協働制作等により、芸術の日常生活への浸透を図ります。
 - ・ 文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図ります。
- 2 初回開催時期
 - ・ 2010年秋の初回開催と、以降、数年毎の定期開催をめざします。
- 3 会場候補
 - ・ 愛知芸術文化センターを拠点とし、県内文化芸術施設等との連携を検討します。
- 4 展開分野・方向
 - ・ 愛知芸術文化センターの機能を活かした分野(美術、舞台芸術)を中心として、新たな文化芸術の創造・発信をめざします。
 - ・ 文化芸術の普及・啓発や、文化芸術団体等の自主事業との連携に取り組めます。

- ・ 文化芸術を軸とした様々な交流・創造活動との連携を通じて、祝祭的な賑わいや盛り上げを図ります。



愛知芸術文化センター フォーラム

メインゲート、メインロビーのある2階から屋上庭園のある12階までダイナミックに吹き抜け、全ての施設への入口となる広場、フォーラム。



国際芸術祭ワークショップ開催状況

国際芸術祭構想の検討に当たっては、芸術関係者、県民、NPO、企業、市町村などから幅広く意見をいただくために、ワークショップやシンポジウムなどを開催。

(「あいち国際女性映画祭」のグレードアップ)

- ・ 中部圏唯一の国際映画祭である「あいち国際女性映画祭」については、これまでの蓄積を活かしつつ、ボランティアによる自主企画事業を実施するなど新たな企画を盛り込み、グレードアップを図ります。

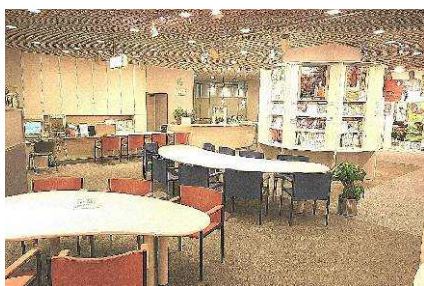
総合的な文化芸術の発信力、訴求力の強化

(県文化情報センター)

- ・ 愛知芸術文化センターのアートプラザ、アートライブラリー等において、国内外の図書等の芸術資料や、美術展、公演等に関するカタログや、チラシ、ポスターなどの様々な広報資料、さらには、文化芸術団体、NPO・ボランティアの活動情報等を幅広く収集、提供するとともに、それらをデジタル・アーカイブ*⁶化し、文化芸術に関する総合的なWebサイト(ホームページ)の構築を推進します。

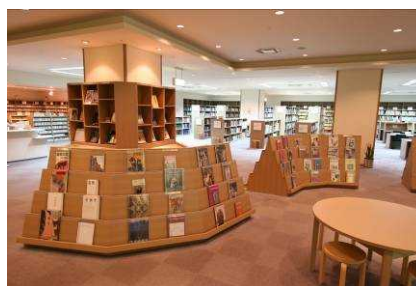
<県文化情報センターの施設概要>

アートプラザ



情報コーナー等

アートライブラリー



収蔵点数 125,709 点(平成 19 年 3 月末現在)

アートスペース



9 室(1,140 m²)

(県内文化施設間の連携強化)

- ・ 愛知県博物館協会*⁷や愛知県公立文化施設協議会*⁸のネットワークを活用し、事業の共同開催や共通パスの発行など、各文化施設との連携

⁶ デジタル・アーカイブ

博物館、美術館、公文書館や図書館の収蔵品をはじめ有形・無形の文化資源等をデジタル化して保存・活用等を行うシステム。

⁷ 愛知県博物館協会

博物館相互の連絡と事業の振興を図ることを目的に、昭和 39 年 1 月に 11 館で発足。現在は、博物館、資料館、美術館、動植物園、水族館、科学館、城などの 128 館園(平成 19 年 6 月末現在)が加盟。

強化を図るとともに、国際芸術祭の開催等にあわせて、地域が一体となった取組を推進します。

(2) 愛知芸術文化センターを拠点とした芸術創造の展開と国際連携の推進

愛知芸術文化センターを拠点とした芸術創造機能を一段と強化し、質の高いオペラ、音楽、舞踊などの舞台芸術や美術展等を継続開催するとともに、センターの複合機能やストックを活かした新たな取組を進めることが重要です。

国際的な文化芸術に関する組織等を通じ、様々な分野での連携・協力の強化や、国際的なパートナーシップの構築に取り組んでいくことが求められます。

愛知芸術文化センターの拠点性や情報発信力を高めながら、企画・制作(プロデュース)機能を一層強化し、鑑賞者層の充実・拡大にもつなげていく必要があります。

<主な取組>

芸術創造機能の強化

(県美術館)

- ・ 20世紀初頭から今日に至るまでの国内外の美術の歴史的な展開をたどる所蔵作品展の開催や、そのための収集方針に基づいた継続的な収集を進めるとともに、美術の様々な領域に目を向け、歴史に残る優れた芸術家の回顧や新しい美術の傾向の紹介など多彩なテーマの企画展を開催していきます。また、全国的な公募展や団体展、地域の人々による作品発表の場を提供していきます。

⁸ 愛知県公立文化施設協議会

県内の公立文化施設の連絡提携のもとに、地域文化の振興を図り、芸術文化の発展に寄与することを目的とし、53館(平成19年4月現在)が加入。

<県美術館の施設概要>

美術館展示室 8室(2,880 m²)



ラウンジ 10階

ギャラリー 10室(3,113 m²)



ギャラリー・ロビー 8階

<美術品の収蔵状況(平成 19 年 4 月 1 日現在)>

開館に向けて収集したもの・開館後収集したもの 1,456 点

愛知県文化会館から引き継いだもの 1,056 点

以上の他、愛知県文化会館から引き継いだ藤井達吉氏寄贈による 1,460 点の美術工芸品等、さらに、近年寄贈を受けた木村定三氏寄贈による 2,785 点の絵画・彫刻等及び 499 件の考古工芸資料等を所蔵。

(県芸術劇場)

- ・ 多様化、高度化する県民ニーズ等を的確に把握しつつ、文化芸術団体や他の劇場等との連携のもと、人材育成も視野に入れながら、質の高いクラシックコンサートや演劇などの公演を継続開催するとともに、全国、世界に向けて、愛知発の独創的なオペラや先駆的・実験的な芸術活動などのさらなる展開を図っていきます。
- ・ 3つのタイプのホールを活かして、様々な分野のニーズに応えながら、質の高い芸術公演の場を提供し、全国、世界における音楽、舞台芸術の発信拠点としていきます。

<県芸術劇場の施設概要>

大ホール



5層 2,500席 3面舞台
(舞台面積：約 2,000 m²)

コンサートホール



3層 1,800席 オルガン(93ストップ)

小ホール



標準 282 席

リハーサル室



大リハーサル室(面積：約 370 m²)
中リハーサル室(面積：約 275 m²)

(県陶磁資料館)

- ・ 陶磁史上において果たしてきた愛知の重要な役割を踏まえ、歴史的・美術的・産業的に貴重な陶磁資料の保存を図るとともに、陶磁器及び陶磁器に関する資料の収集、保存、展示及び調査研究並びに県民に陶芸教室及び陶芸展示室の利用・提供を行っていきます。
- ・ 県立芸術大学と連携強化を図り、所蔵品を活用した講義支援等を行っていきます。

<県陶磁資料館の施設概要>

本館



歴史的・美術的陶磁資料の展示、貸ギャラリー

南館



産業的陶磁資料の展示

西館



民俗文化財である陶磁のこま犬の展示

古窯館 平安・鎌倉時代の古窯 5 基の保存展示

復元古窯、移築瓦窯

既収集点数 4,222 点 (平成 19 年 4 月 1 日現在)

陶芸館



作陶・絵付け、陶芸教室

複合機能やストックの活用

(分野横断的な芸術創造)

- ・ 愛知芸術文化センターの美術展示スペースや大ホール、コンサートホール等の複合機能を活かすため、全館的な中長期の計画を検討し、美術、音楽、舞踊などの分野横断的な新たな芸術創造に取り組みます。

(芸術と都市機能等との連携)

- ・ 「栄・都心部」に位置する愛知芸術文化センターの立地特性を活かし、栄公園やオアシス 21 等との連携を強化しながら、芸術を軸とした多様な交流・創造を持続的に展開するなど、都市機能と一体となった芸術創造に取り組みます。
- ・ 陶磁資料館、県立芸術大学、愛・地球博記念公園等の相互の近接性や機能、特徴を活かした連携可能性を検討し、県民参加型の広がりをもった文化芸術活動の展開や文化芸術関連イベントの開催等に取り組みます。

国際的なパートナーシップの構築

(アジア太平洋パフォーミングアーツセンター連盟)

- ・ アジア太平洋地域にある総合芸術文化施設等で構成される「アジア太平洋パフォーミングアーツセンター連盟⁹」のネットワークを活用し、舞台芸術面での人材交流や共同制作等の新たな取組を推進します。

(多様な国際ネットワークづくり)

- ・ 国際芸術祭の定期開催に取り組む中で、文化芸術に関わる様々な国際的なパートナーシップやネットワークを構築し、地球規模での交流・創造の展開や諸文化の多様な発展に積極的に貢献するよう努めます。

⁹ アジア太平洋パフォーミングアーツセンター連盟

舞台芸術の拠点を担うアジア太平洋地域の主要な総合芸術文化施設で構成される連盟で、1996年に発足し、50施設・機関(平成19年3月現在の正会員及び準会員)で構成。

(3) 芸術と産業の融合促進

芸術の産業化を図っていくため、大学、企業等との連携を促進するとともに、先端的なメディア技術等を活用した新たな取組を検討し、具体化を進めていく必要があります。

<主な取組>

大学や企業等との連携促進

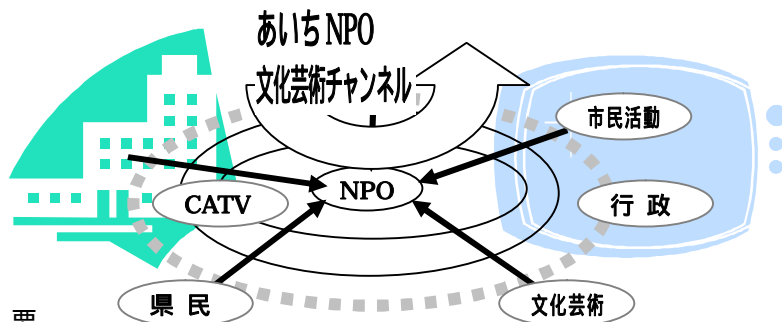
(県立芸術大学と企業との連携)

- ・ 県立芸術大学における企業からの受託研究・共同研究の拡大方策を検討します。特に、美術学部ではデザイン・陶磁分野での産業界との連携強化、音楽学部では民間の音楽研究機関との連携強化をめざします。

(新たなメディア・ネットワークづくり)

- ・ NPO、ケーブルテレビ事業者、市町村等との協働により、愛知芸術文化センターを拠点として、ケーブルテレビの地域チャンネルを活用した新たなメディア・ネットワーク(「あいち NPO 文化芸術チャンネル(仮称)」)の検討、具体化を進め、若手芸術家の活動発表の場の提供や企業との連携促進等に取り組みます。

<あいち NPO 文化芸術チャンネル(仮称)のイメージ>



・ 概要

愛知芸術文化センターを拠点として、県民の自主制作ビデオや若手芸術家の作品・公演を始め様々な地域情報を番組化して放送する「あいち NPO 文化芸術チャンネル(仮称)」の立上げをめざし、地域に密着した県民ニーズやメディア制作に精通した NPO を中心として、CATV 事業者、行政の協働により構想策定、推進体制づくり等に取り組みます。

・ 役割分担

NPO 自主制作ビデオの公募・選定、番組の制作・配給。

CATV 事業者 既存のコミュニティーチャンネルの空き時間を利用した番組の放送。

県・市町村 公募事業等の広報協力、各種の文化情報や行政情報の提供。

メディア技術等を活かした取組の推進

(先駆的な芸術創造)

- ・ 愛知芸術文化センターにおいて、芸術系大学や企業等との連携のもとに、映像やアニメーションなどのメディア芸術*¹⁰を中心とした芸術創造や、舞踊や音楽を取り入れた先駆的なメディア芸術の展開を推進します。

(デジタルコンテンツ産業の振興)

- ・ デジタルコンテンツ*¹¹に関わる人材の定着を促進し、地域のニーズ等を踏まえたデジタルコンテンツ産業の集積を図るため、新たなビジネス・モデルの研究や、人材の育成、企業誘致に取り組みます。
- ・ 特に、映画は、文学や演劇、音楽、美術などの幅広い分野の芸術を活かした総合的なコンテンツであり、デジタル化の進展により制作コストが低下していることを好機として、地域独自の映画制作拠点の形成に向けて、芸術系大学や企業、NPOなどと幅広い推進体制を構築するなど、積極的に取り組みます。

¹⁰ メディア芸術 脚注3参照

¹¹ デジタルコンテンツ

デジタル化された映画、音楽、演劇、文芸、写真、漫画、アニメーション、コンピュータプログラムなどの表現物をいう。

2 文化芸術を担い、支える人づくり

(1) 子どもの文化芸術体験の充実

市町村や芸術系大学、文化芸術団体、NPO、企業との連携を強化しつつ、より地域の主体性や当事者の創意を活かした子どもの文化芸術体験機会の拡大・充実を図るとともに、家庭、学校、地域社会等において、子どもの感性や想像力を育む環境づくりに取り組んでいくことが重要です。

<主な取組>

子どもの文化芸術体験機会の拡大・充実

(「あいち子ども芸術大学」)

- ・ 子どもたちの豊かな感性や想像力を文化芸術の面から育むため、市町村や文化芸術団体、NPO等の幅広い協力を得ながら、第一線で活躍する芸術家との交流を始め、優れた文化芸術に出会い、身近に親しむ機会を提供する「あいち子ども芸術大学」を充実して開催していきます。

<あいち子ども芸術大学の概要>

平成18年度から、愛知県を始め、県内市町村、文化芸術団体、報道機関の参加のもと実行委員会を設置し、県内各地の会場を大学のキャンパスに見立て、美術、ダンス、音楽、映画、陶芸、写真、裏方体験などの様々な分野で、第一線で活躍する芸術家を講師とする本格的な文化芸術体験講座(18年度は32講座)を実施しています。

この事業は、学校教育の場とは別に、夏休みや週末を利用し、子どもたちが自由に選択・応募して参加できる仕組みを特徴としています。



「夏休み ピアノ再発見！」(H19.8 愛知芸術文化センター)

(子どもの文化活動の育成)

- ・ 優れた舞台芸術団体を派遣して、舞台芸術を通じた地域における参

加体験交流の機会を提供したり、小・中・高校生と文化芸術団体等との連携事業を実施することにより、地域における子どもを中心とする文化芸術活動を活性化し、地域や学校の文化力・教育力の向上を図ります。

(「総合的な学習の時間」への支援・協力)

- ・ 小・中・高校、特別支援学校の「総合的な学習の時間」における公立文化施設を活用した文化芸術に関する教育に対して、積極的に支援・協力します。
- ・ 高校生の文化芸術活動の総合的な発表会を愛知芸術文化センター等において開催し、高校の文化部等に最高の発表の場を提供するとともに参加者相互の交流を進めます。

子どもの感性や想像力を育む環境づくり

(ふるさと遺産のサポート)

- ・ 文化財の保護・継承のために、子どもたちが、地元の民俗芸能保存団体と交流できる環境を整え、自ら旗振り役として活躍できる子どもたちを育てるとともに、併せて文化財図録等をインターネットで公開することにより、広く県民に周知し、文化財保護の気運を高めます。

(生活を支える「ものづくり」体験)

- ・ 現代の「ものづくり」の原点である弥生時代の技術を体験させることにより、先人たちの創意工夫を学ばせ、自ら考え行動する力を育み、将来の愛知を担っていく創造性豊かな人材を育成します。

(2) アウトリーチ活動等の充実・拡大

県立芸術大学などの芸術系大学や文化芸術団体、NPO等と連携したアウトリーチ活動*¹²等を充実・拡大し、芸術家や文化芸術団体等と県民とを結びつける人材の育成、文化芸術関係施設スタッフのアートマネジメント

¹² アウトリーチ活動 脚注4参照

ト*¹³ 能力の向上を図っていく必要があります。

<主な取組>

アウトリーチ活動の促進

(芸術系大学等との連携強化)

- ・ 県立芸術大学などの芸術系大学等と連携を強化し、大学の研究成果の社会還元への促進や、県民ニーズに対応した演奏会、講演会、美術展の開催等に取り組んでいきます。

(若手芸術家と市町村の連携促進)

- ・ 若手芸術家と市町村文化施設等の各担当者が出会い、連携を具体化するためのワークショップ等を開催し、各地域でのアウトリーチ活動の拡大を図ります。

アートマネージャー等の人材育成

(アート・マネジメント研修)

- ・ 県立芸術大学芸術創造センター等と連携し、市町村の文化行政担当者等を対象としたアートマネジメントに関する講座の開催、情報提供等を行います。

(専門図書等の提供)

- ・ 愛知芸術文化センター・アトライブラリーにおいて、芸術文化関係の専門図書等(図書、楽譜等の図書資料、CD等の録音資料、ビデオ等の録画資料)を収集・整理し、文化芸術に関する各種の調査研究を支援します。

(インターンシップの受入れ)

- ・ 愛知芸術文化センター、陶磁資料館等において、芸術・情報系大学等の学生のインターンシップ(就業体験)を受け入れ、文化芸術に携わる人材養成を支援します。

¹³ アートマネジメント

文化芸術を社会の中にどうやって取り入れ、活用していくか、そのための手法をアートマネジメントと呼び、学問としての研究が進んでいます。

(3) 新進芸術家の育成支援

愛知の文化芸術を担う様々な若手芸術家が、愛知芸術文化センター等を拠点として、交流し、活動発表するための場づくりを進めるとともに、国際的に飛躍・発展していくための機会の拡大などに取り組んでいくことが重要です。

<主な取組>

活動発表・交流の場づくり

(「アーツ・チャレンジ～新進アーティストの発見 in あいち」)

- ・ 本県から全国に、ひいては世界に羽ばたくアーティストの輩出をめざし、愛知芸術文化センターや陶磁資料館等において、若手芸術家の力を結集して、新しいアートを創造する斬新な企画を実現・発表する場を提供するとともに、大学やNPO、企業等との連携により活動の展開を支援していきます。

<「アーツ・チャレンジ～新進アーティストの発見 in あいち」の概要>

平成 18 年度から、愛知県を始め(財)愛知県文化振興事業団、報道機関の参加のもと実行委員会を設置し、若手アーティストを公募し、活動発表の場を提供しています。

平成 18 年度は、舞踊、美術の 2 部門 15 名・1 グループの活動発表の場を提供し、舞踊部門では、自ら舞踊作品を創作する振付家を養成するため、選ばれたアーティストが、講師の指導のもとオリジナルの振付作品を創作・発表しました。美術部門では、愛知芸術文化センターのパブリックスペースなどの空間を活かした企画を選考し、選ばれた作家が制作・展示を行いました。



平成 18 年度美術部門
作品展示作業の様子

(芸術活動を活かした交流の場づくり)

- ・ まちなかのオープンスペース等を活用して若手アーティストの作品発表の場を提供するなど、芸術活動を活かした交流の場づくりを進めます。

国際的に飛躍・発展する機会の拡大

(「文化新人賞」)

- ・ 平成 19 年度から愛知県芸術文化選奨に新設した「文化新人賞」により、文化芸術の各分野の一層の向上と、愛知の文化芸術の発展に、将来にわたって貢献することが期待できる個人・団体を表彰します。

(新進芸術家に焦点を当てた企画展等)

- ・ 現代的な切り口やテーマから新進芸術家の作品や活動を取り上げ、紹介する企画展やシリーズ公演等を開催するなど、愛知から全国、世界へ新進芸術家が躍進していくための取り組みを推進します。

(海外留学や国内研修情報の提供)

- ・ 文化庁等が実施する新進芸術家の研修事業の周知や希望者の推薦を行うなど、海外留学や国内研修への参加を支援します。

(4) 鑑賞機会の充実・拡大

芸術の担い手と支え手の両方を育てていくという観点から、県民の幅広い層における文化芸術の鑑賞機会の充実・拡大の取組を促進し、鑑賞者層の拡大と鑑賞力の向上を図っていくことが重要です。

<主な取組>

多様な活動・交流の促進

(実演家団体等との連携)

- ・ オペラ、コンサート、演劇など幅広い文化芸術分野の制作・公演に取り組んでいる(財)愛知県文化振興事業団などの事業展開を図る上で、人材育成も視野に入れつつ、実演家団体等との連携を一層強化し、県民の優れた文化芸術の鑑賞機会のさらなる充実に努めていきます。

(新たなメディア・ネットワークづくり)

- ・ 愛知芸術文化センターの美術展や公演の状況、自主制作映像等を放送するための新たな仕組みとして、ケーブルテレビの地域チャンネルを活用した新たなメディア・ネットワーク(「あいち NPO 文化芸術チャンネル(仮称)」)の検討、具体化を進めます。(再掲)

(鑑賞支援プログラム等の充実)

- ・ 県美術館において視覚障害者が気軽に美術鑑賞できるプログラムの継続実施と一層の充実に努めます。
- ・ 県民の誰もが、気軽に参加、鑑賞できるよう、車椅子席の十分な確保や手話解説の実施、託児室や家族鑑賞室の設営など、公演、展示等で利用者への配慮を推進します。

地域間連携による鑑賞機会の拡大

(市町村連携の促進)

- ・ 県内市町村の文化施設担当者等を対象に研修会やワークショップ等を開催し、先進事例の研究や、若手芸術家との交流を通じた事業の共同立案などを支援します。

(「移動美術館」等の開催)

- ・ 県立芸術大学や(財)愛知県文化振興事業団、市町村等と連携し、美術館やコンサートホールなどに普段なかなか足を運ぶことができない地域の人々に、気軽に県美術館の所蔵作品に親しんでもらう「移動美術館」や、出張コンサートを開催します。

(所蔵作品の有効活用)

- ・ 県内の美術館や博物館を始め公共施設等において、県美術館や陶磁資料館の所蔵作品の展示スペースが確保できる施設をサテライト展示場として利用するなど、数多くの所蔵作品の有効活用と県民の身近な鑑賞機会の拡大を図ります。

3 多様な個性・価値を実現する文化芸術の場づくり

(1) 「新しい公共」のモデルとなる愛知芸術文化センター等の新展開

愛知芸術文化センターや陶磁資料館の役割を見直し、「新しい公共」*¹⁴のモデルとして新たなミッション(使命)を構築し、NPO・ボランティア等との連携・協働による県民の自主的、主体的な文化芸術活動の場づくりを進める必要があります。

<主な取組>

愛知芸術文化センター等の新展開

(協働を創出する場づくり)

- ・ 愛知芸術文化センターのアートプラザを中心として、芸術家、NPO・ボランティア、企業等の文化芸術に関わる幅広い人々の溜まり場づくりを進め、様々な分野における協働による文化芸術活動の創出をめざします。

(館内スペースの有効活用)

- ・ NPO・ボランティア等との連携のもとに、愛知芸術文化センターや陶磁資料館の施設利用のあり方を見直し、芸術家や文化芸術団体の自主的、主体的な活動の場として、低未利用スペース等の活用を図ります。

連携・協働による文化芸術活動の場づくり

(全館的な共同企画)

- ・ 愛知芸術文化センターにおいて、例えば、各季ごとに「AAC・コラボレーション・デイ(仮称)」を設定し、企画競争方式でホールや展示スペース等を新進芸術家等の活動発表の場や仮設マーケットとして提供するなど、全館的な共同企画の実現に取り組みます。

(「あいちの晴れ舞台(仮称)」)

- ・ 利用申込みの受付期間を経過したホールや展示スペース等の空き時間枠を活用し、通常、費用負担などの面で利用が難しい文化芸術活動

¹⁴ 「新しい公共」脚注2参照

の発表や普及啓発のための「あいちの晴れ舞台(仮称)」として、低料金での会場提供を検討します。

(ボランティア活動の促進)

- ・ 愛知芸術文化センターや陶磁資料館において、各施設の「友の会」やNPO等との連携を一層強化しながら、運営ボランティアや解説ボランティア、視覚障害者ガイドの養成、支援の取組を推進します。

(2) 広域的、国際的な文化芸術活動の重点支援

国、市町村、民間等との適切な役割分担のもとに、相互の連携を図りつつ、県としては、より広域的、国際的な文化芸術活動への支援に重点を移行していく必要があります。

<主な取組>

広域的、国際的な活動の重点支援

(補助制度の見直し)

- ・ 県の文化活動事業費補助制度*¹⁵では、これまで、原則として補助要件を満たす全ての申請者に対し補助金を交付してきましたが、今後は、企画競争方式等により、より広域的、国際的な事業や、先駆的、実験的な事業を重点的に支援するように制度を見直します。

助成制度等の有効活用

(各種助成制度の活用)

- ・ 愛知芸術文化センターのアートプラザ等において、文化庁や(財)地域創造、(財)自治総合センターなどの公的な機関による助成制度や、(社)企業メセナ協議会*¹⁶の助成認定制度、民間財団等の各種助成金などの

¹⁵ 文化活動事業費補助金

県民の自主的・自発的な文化活動の促進を図るため、文化振興基金(H3年度設置 100億円)の運用益の一部をあて、県内に活動の本拠を置く文化活動団体の行う事業に対し助成。(H18年度実績 164団体 34,823千円 1団体当たり平均交付額 212千円)

¹⁶ (社)企業メセナ協議会

企業によるメセナ(芸術文化支援)活動の活性化を目的に1990年に設立された公益法人。企業メセナへの意欲を高め、社会のメセナに対する理解を深めるために、その啓発・普及活動をはじめ、調査・顕彰等の事業を行っており、正会員149社、準会員40団体(平成19年4月現在)となっています。

情報を幅広く収集・整理し、インターネットを通じてタイムリーに情報提供を行うとともに、助成申請等に関する相談やアドバイスなどを行います。

(3) 多様な文化が輝く社会づくり

様々な国、地域の人々が、互いの文化やライフスタイルを理解し、多様な文化を尊重し、文化芸術活動に取り組むことのできる地域社会づくりを進めていくことが必要です。

<主な取組>

多文化共生社会づくり

(多言語での文化情報の提供等)

- ・ 外国人が等しく文化芸術を享受する機会がもてるよう、(財)愛知県国際交流協会等との連携・協力のもと、文化情報の多言語化、内容の充実に努めるとともに、世界の様々な文化に関する情報をあわせて収集、提供するなど、多言語による文化情報の提供等を行います。

((財)愛知県国際交流協会による支援)

- ・ (財)愛知県国際交流協会では、市町村国際交流協会・NPO・県民による国際交流・国際協力に対する支援、国際化の推進役となる人材の育成、調査研究・情報の提供の充実、外国人県民とともに生きる地域社会づくりへの支援等を行います。

特色ある生活文化等の継承・発展

(伝統的な生活文化の普及促進)

- ・ 茶道、華道、書道などの伝統的な生活文化の一層の普及・定着を図るため、広く県民一般を対象として発表・展示を行う事業や、外国の文化活動団体と共同で行う文化交流事業に対する支援等を行います。

(伝統的工芸産業の振興)

- ・ 地域の歴史と生活文化に根ざした貴重な財産である伝統的工芸品等の産業振興を図るため、工芸品等の普及に努めるとともに、展示会開催などの需要拡大に向けた取組みに対する支援を行います。

(産業陶磁関連の展示)

- ・ 陶磁資料館・南館において瀬戸焼・常滑焼、三河鬼瓦、尾張七宝などの伝統的焼きものやタイル、ファインセラミック、ノベルティなどの現代陶磁器製品など陶磁産業の現況を紹介する常設展示や、陶磁関連情報の提供を行います。

(小原美術工芸和紙作品の展示等)

- ・ 和紙のふるさと展示館において、小原工芸和紙の創始者である藤井達吉の美術工芸品や小原で創作される美術工芸和紙作品の展示を行うほか、和紙を主体とした美術展などの企画展の開催をします。また、和紙工芸館においては、小原工芸和紙の制作実習を行い、「絵すき」、「うちわ作り」などを気軽に楽しめる場の提供をします。

(三河の山里活性化)

- ・ 三河山間地域の産業・文化・伝統・暮らしぶりを体感できるイベント等を実施し、この地域への関心を高めることにより交流・定住人口の増加、地域の活性化を図ります。

4 地域文化の発掘・継承・発展の仕組みづくり

(1) 地域の伝統芸能や文化財、食文化、景観等を活かした地域力の強化

地域の伝統陶芸、地芝居、伝統食、歴史的街並み等の文化資源を発掘・再評価し、地域全体の活性化に役立てていくことが重要であり、そのための取組を促進していく必要があります。

<主な取組>

文化資源の発掘・再評価

(文化財の保存・継承)

- ・ 県内に所在する国・県指定文化財を適切に後世に伝えるため、所有者、管理者等が実施する保存修理等事業を支援します。また、文化財のうち重要なものを指定し、とりわけ、無形民俗文化財については、制作した記録映像等の活用を図るなど、その保存・活用を推進します。

(ふるさと遺産のサポート)

- ・ 文化財の保護・継承のために、子どもたちが、地元の民俗芸能保存団体と交流できる環境を整え、自ら旗振り役として活躍できる子どもたちを育てるとともに、併せて文化財図録等をインターネットで公開することにより、広く県民に周知し、文化財保護の気運を高めます。(再掲)

(民俗芸能大会等の開催)

- ・ 国、県及び市町村指定の無形民俗文化財等の保存・伝承を図るとともに、民俗芸能への理解と認識を深めるため、毎年、「愛知県民俗芸能大会」を開催します。

また、「ふるさと芸能祭」を開催し、県内外に伝承されている様々な伝統芸能や民俗芸能を紹介します。

(文化資源を活かした活動への支援)

- ・ 地域の文化資源を活かした個性豊かな文化振興を図るため、地域が自主的・主体的に取り組むの事業に対して支援を行います。

文化資源を活かした地域力の強化

(都市と農山漁村の交流)

- ・ 農山漁村の伝統文化や食、景観などの魅力ある地域資源を紹介するとともに、これらの地域資源を巡るモデルルートを作成・紹介することにより、農山漁村の良さ、農林漁業をPRし、都市と農山漁村の交流を一層推進します。

(産業観光施設等の活用)

- ・ 県内の産業をテーマにした施設(産業遺産、工場・工房等)を観光資源とし、施設間の連携により情報提供体制の充実を図り、その魅力を広くアピールすることにより観光振興を図ります。

(地域文化資源のデジタル化)

- ・ 県内の自然環境や歴史、文化、人物等の地域資源を発掘して、地域住民が地域づくり活動などに利用しやすいようにデジタル・アーカイブ^{*17}化を行い、県ホームページを通じて情報発信していきます。

(2) 地域文化を支える NPO・ボランティア活動等の促進

地域文化の担い手である地域住民の主体的な参画促進を図っていくため、NPO・ボランティア活動の支援・促進や、NPO・ボランティア、企業、行政の連携・協力の仕組みづくりに取り組んでいくことが重要です。

<主な取組>

NPO・ボランティア活動の支援・促進

(文化ボランティア)

- ・ 博物館や美術館などの文化施設における解説ボランティアや運営ボランティアの活動を支援・促進するため、生涯学習分野との連携を図りながら、愛知芸術文化センターのアートプラザ等において、ボランティア活動に関する相談・紹介、情報の収集・提供、コーディネーターの養成等を進めます。

¹⁷ デジタル・アーカイブ 脚注6参照

連携・協力の仕組みづくり

(地域文化のローカル・ネットワーク)

- ・ 県内各地域において、愛知芸術文化センターを拠点とするメディア・ネットワークの地域版ともいえるローカルネットワークの検討、具体化を進め、NPO・ボランティア、ケーブルテレビ事業者、市町村等との協働による自主的、自立的な地域文化の発展に向けた仕組みづくりを促進します。

5 文化芸術政策の総合的な推進

(1) 推進体制の充実・強化

芸術創造機能の強化や幅広い協働を基礎とした政策推進を図るため、愛知芸術文化センターや陶磁資料館、(財)愛知県文化振興事業団等の役割、組織、事業のあり方を見直すとともに、県立芸術大学との連携を強化していく必要があります。

また、県民、NPO・ボランティア、企業、市町村等との幅広い協働を推進し、共有する目的、目標の達成に向けてチャレンジしていくことが重要です。

文化芸術と教育、福祉、観光、まちづくりなどの分野との連携体制を強化するとともに、人材や資源の効率的・効果的活用やノウハウの共有を図っていくことが重要です。

<主な取組>

組織・機構の充実

(関係機関・団体の機能強化)

- ・ 愛知芸術文化センターの美術館、芸術劇場等の機能と(財)愛知県文化振興事業団の企画・制作(プロデュース)機能を活かした事業展開や、都心に立地する同センターと、東部丘陵の森に立地し、広大な屋外スペースを有する陶磁資料館のそれぞれの特性を活かした事業連携を推進するため、機能強化や連携体制の構築に取り組みます。
- ・ (財)愛知県文化振興事業団が培ってきた専門的なノウハウを活用し、コーディネーターとなって、芸術家、文化芸術団体等との連携・協働を推進し、愛知芸術文化センターを拠点とした芸術創造機能の強化を図ります。

(国際芸術祭の推進組織)

- ・ 国際芸術祭の立ち上げと定期開催、さらにはその成果を活かした施策の総合展開をめざし、新たに推進組織を設置し、芸術関係者、県民、NPO・ボランティア、企業、市町村等の幅広い連携・協働を推進するなど、地域が一体となった取組の展開を図ります。

(県立芸術大学との連携)

- ・ 愛知芸術文化センターと県立芸術大学の連携強化を図るため、県立芸術大学の窓口機能を担う「芸大サテライト(仮称)」の設置検討や、連携事業の充実・拡大を図ります。

市町村との連携強化

(市町村文化行政ネットワーク会議)

- ・ 県内市町村の文化施設担当者等を対象に研修会やワークショップ等を開催し、先進事例の研究や、アートマネジメントに関する能力向上、事業の共同立案などを支援します。

(市町村文化研究会)

- ・ 県内 5 つの地域で開催される市町村文化研究会に継続的に参加し、地域特性を活かした文化芸術の振興の共同研究や、県と市町村、市町村相互の連絡・調整を図ります。

他分野との有機的連携

(部局横断的な連携体制)

- ・ 「愛知県文化行政推進会議」*¹⁸により部局間の総合調整を図るとともに、特定課題・テーマについて、部局横断的な作業グループを機動的に組織し、調査研究や先導的施策の企画立案に取り組むなど、文化芸術政策を総合的かつ効果的に推進します。

(2) 従来施策の見直しや民間資金の活用

従来の施策を不断に見直し、新分野へも積極的にチャレンジしていくことが重要です。

地域の文化芸術資源を有効活用するための民間資金の活用方策等を検討していくことが求められます。

¹⁸ 愛知県文化行政推進会議

愛知県の文化行政に関する施策について、総合的かつ効果的な推進を図るため、庁内 10 部局 23 課室で構成。

<主な取組>

施策・取組の評価と改善

(自立的かつ継続的な改善)

- ・ 施策・取組の節目、節目に、その必要性や効果、優先度、NPO・ボランティア等との協働の可能性など、様々な観点から主体的積極的に評価・点検し、文化芸術政策の自立的かつ継続的な改善を進めます。

(透明性・客観性等の確保)

- ・ 施策・取組の評価・点検の結果については、できる限り分かりやすい形で公表するよう努めます。また、評価・点検結果の客観性や専門性を高めるため、自己評価(内部評価)だけでなく、専門家や県民による第三者評価(外部評価)の実施を検討します。

民間資金等の活用

(民間の資金・ノウハウの導入)

- ・ 愛知芸術文化センターや陶磁資料館での事業展開を図る中で、企業スポンサーとの継続的な協力関係の構築や指定管理者制度の導入、さらには施設改修を見据えたPFI*¹⁹の活用を検討します。

((社)企業メセナ協議会との連携)

- ・ 芸術家や文化芸術団体の活動を支援するため、企業や個人の寄附を促進する(社)企業メセナ協議会*²⁰の「助成認定制度」の相談窓口となっている(財)愛知県文化振興事業団を通じて、その周知や積極的活用を進めます。

¹⁹ PFI(Private Finance Initiative : プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)

公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法。平成11年7月に「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」(PFI法)制定。

²⁰ (社)企業メセナ協議会 脚注16参照

推進方針の具体化に向けて

この推進方針で取り上げた取組を着実に推進していくためには、文化芸術活動に携わる人々の自主性、創造性を十分に尊重しつつ、県民、NPO・ボランティア、企業、市町村等の様々な主体との適切な役割分担のもとに、目的・目標を共有し、相互の理解を深めながら、連携・協働して実施を図ります。

推進方針で掲げた取組の進捗状況や新たに取り組むべき課題の把握に当たっては、できるだけ幅広い意見等を集約し、それらを踏まえた推進方針のさらなる充実や時代の変化に応じた見直しを行います。

(2010年のマイル・ストーン)

- ・ 推進方針では、5つの重点方向に即して、14の基本課題と30の主な取組を掲げていますが、最初に掲げた「国際芸術祭の開催」(9頁)は、政策全体を推進するための先導的な役割を担っており、その初回開催をめざす2010年(平成22年)は、推進方針の大きなマイル・ストーン(一里塚)と言えます。
- ・ 「世界・未来へ“愛知発”の交流・創造の展開」、「連携・協働による文化芸術の振興と多様な交流の促進」、「文化芸術に彩られた心豊かな地域社会の実現」の3つの目標をしっかりと視野にとらえ、平成19年度の国際芸術祭の基本構想の策定を端緒として、その実現に重点的に取り組んでいきます。

(幅広い意見把握)

- ・ 推進方針に掲げた取組の企画立案、実施、評価等に際して、できるだけ幅広く意見等を把握し、十分考慮した上でその推進を図るとともに、基礎的データの収集や調査研究の充実、さらには、文化芸術の特性を十分に踏まえ、定量的な評価だけでなく、定性的な評価を含む適切な評価手法の導入検討にも取り組んでいきます。

文化芸術創造あいちづくり

<3つの目標>

世界・未来へ「愛知発」の交流・創造の展開

連携・協働による文化芸術の振興と多様な交流の促進

文化芸術に彩られた心豊かな地域社会の実現

<5つの重点方向>

1 世界・未来に貢献する文化芸術の創造と展開

2 文化芸術を担い、支える人づくり

3 多様な個性・価値を実現する文化芸術の場づくり

4 地域文化の発掘・継承・発展の仕組みづくり

5 文化芸術政策の総合的な推進

<14の基本課題>

(1) 国際的な芸術祭等の広域展開と愛知文化の発信

(2) 愛知芸術文化センターを拠点とした芸術創造の展開と国際連携の推進

(3) 芸術と産業の融合促進

(1) 子どもの文化芸術体験の充実

(2) アウトリーチ活動等の充実・拡大

(3) 新進芸術家の育成支援

(4) 鑑賞機会の充実・拡大

(1) 「新しい公共」のモデルとなる愛知芸術文化センター等の新展開

(2) 広域的、国際的な文化芸術活動の重点支援

(3) 多様な文化が輝く社会づくり

(1) 地域の伝統芸能や文化財、食文化、景観等を活かした地域力の強化

(2) 地域文化を支えるNPO・ボランティア活動等の促進

(1) 推進体制の充実・強化

(2) 従来施策の見直しや民間資金の活用

<30の主な取組>

国際芸術祭等の定期的開催
総合的な文化芸術の発信力、訴求力の強化

芸術創造機能の強化
複合機能やストックの活用
国際的なパートナーシップの構築

大学や企業等との連携促進
メディア技術等を活かした取組の推進

子どもの文化芸術体験機会の拡大・充実
子どもの感性や想像力を育む環境づくり

アウトリーチ活動等を充実・拡大
アートマネージャー等の人材育成

活動発表・交流の場づくり
国際的に活躍・発展する機会の拡大

多様な活動・交流の促進
地域間連携による鑑賞機会の拡大

愛知芸術文化センター等の新展開
連携・協働による文化芸術活動の場づくり

広域的、国際的な文化芸術活動の重点支援
助成制度等の有効活用

多文化共生社会づくり
特色ある生活文化等の継承・発展

文化資源の発掘・再評価
文化資源を活かした地域力の強化

NPO・ボランティア活動の支援促進
連携・協力の仕組みづくり

組織・機構の充実
市町村との連携強化
他分野との有機的連携

施策・取組の評価と改善
民間資金等の活用

<個別項目 67 件 (重点:14 件 新規:24 件) >

国際芸術祭の開催 「あいち国際女性映画祭」のグレードアップ
県文化情報センター 県内文化施設間の連携強化

県美術館 県芸術劇場 県陶磁資料館
分野横断的な芸術創造 **芸術と都市機能等との連携**
アジア太平洋パフォーミングアーツセンター連盟 **多様な国際ネットワークづくり**

県立芸術大学と企業との連携 **新たなメディア・ネットワークづくり**
先駆的な芸術創造 **デジタルコンテンツ産業の振興**

「あいち子ども芸術大学」 **子どもの文化活動の育成** 「総合的な学習の時間」への支援・協力
ふるさと遺産のサポート **生活を支える「ものづくり」体験**

芸術系大学との連携強化 **若手芸術家と市町村の連携**
アート・マネジメント研修 専門図書等の提供 インターンシップの受入れ

「アーツ・チャレンジ～新進アーティストの発見 in あいち」 芸術活動を活かした交流の場づくり
「文化新人賞」 **新進芸術家に焦点を当てた企画展等** 海外留学や国内研修情報の提供

実演家団体等との連携 **新たなメディア・ネットワークづくり**(再掲) 鑑賞支援プログラム等の充実
市町村連携の促進 「移動美術館」等の開催 **所蔵作品の有効活用**

協働を創出する場づくり **館内スペースの有効活用**
全館的な共同企画 「あいちの晴れ舞台(仮称)」 ボランティア活動の促進

補助制度の見直し
各種助成制度の活用

多言語での文化情報の提供等 (財)愛知県国際交流協会による支援
伝統的な生活文化の普及促進 伝統的工芸産業の振興 産業陶磁関連の展示 小原美術工芸和紙作品の展示等 三河の山里活性化

文化財の保存・継承 **ふるさと遺産のサポート**(再掲) 民俗芸能大会等の開催 文化資源を活かした活動への支援
都市と農山漁村の交流 産業観光施設等の活用 地域文化資源のデジタル化

文化ボランティア
地域文化のローカル・ネットワーク

関係機関・団体の機能強化 **国際芸術祭の推進組織** **県立芸術大学との連携**
市町村文化行政ネットワーク会議 市町村文化研究会
部局横断的な連携体制

自立的かつ継続的な改善 **透明性・客観性等の確保**
民間の資金・ノウハウの導入 (社)企業メセナ協議会との連携